

音の静寂を聴く

- PPの無限の広がりを感じる
クラヴィコードの世界 -



今日私達は電気によって拡張された音楽に囲まれています。テレビ、ラジオ、オーディオ、レストラン、スーパーマーケット、駅、学校、とありとあらゆるところで大音量の洪水です。ところが、18世紀までの西洋には、蝋燭の炎のゆらぎを聴くかのようなとても繊細な音の鍵盤楽器が存在しました。それがクラヴィコードです。しかもこの楽器は私達が良く知っている、J.S. バッハやモーツァルト、そしてハイドンといった作曲家に愛好され、彼らの管弦楽を用いた規模の大きな作品の作曲にも使用されたのです。それにもかかわらず、この楽器の音の小ささゆえに経済効率最優先の20世紀においては殆ど忘れ去られた存在でした。音空間の広がり、実は音量とは無関係である、そんな神秘的な体験をしてみませんか？

話題提供者 山名 敏之 (教育学部 教授)



山名敏之 (クラヴィコード)



東京藝術大学器楽科 (ピアノ専攻)、オランダ・スウェーリンク音楽院をソリスト・ディプロマを得て卒業。ピアノを安川加壽子、ヴィレム・ブロンズの各氏に、フォルテピアノをスタンリー・ホーランド氏に師事。小林研一郎指揮、東京交響楽団とリストのピアノ協奏曲を共演(1996年)、ザ・フェニックス・ホール主催ピアノはいつピアノになったか? 第4回「シューベルトの悩み」(2003年)、横浜みなどみらいホール レクチャー・コンサートシリーズ「ピアノの歴史」第2回「謀略家としてのハイドン」(2007年)に出演。2007年にはNHK「びあひのピア」第11回～第14回にフォルテピアノで出演。2009年～2012年「ハイドン・クラヴィア大全」としてハイドンの全クラヴィア独奏曲をクラヴィコード、チェンバロ、フォルテピアノで演奏研究し、CD「ハイドンと18世紀を彩った鍵盤楽器たち」(ALM RECORDS)にまとめる。バッハのクラヴィア独奏用の全作品演奏シリーズ『バッハマニア』、シューベルトの作品演奏シリーズ『シューベルトティアード』を展開中。和歌山大学教育学部教授。

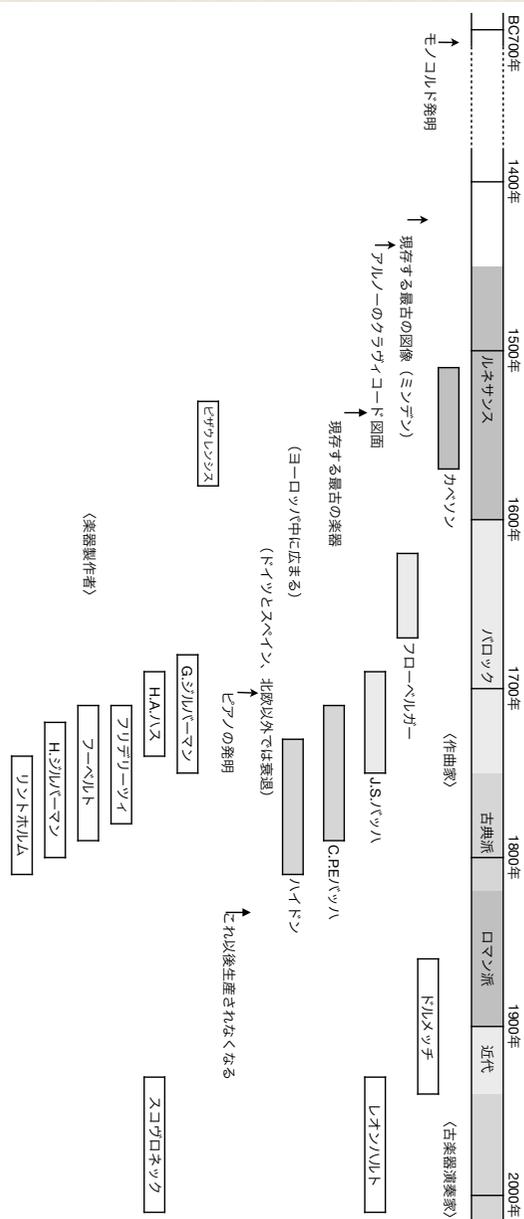
<http://klavi.info/index>

和歌山大学岸和田サテライト
岸和田市港緑町 1-1 浪切ホール 2F

Tel & Fax : 072-433-0875

URL : <http://www.wakayama-u.ac.jp/kishiwada/>

クラヴィコードの歴史



7月20日（水）和歌山大学岸和田サテライト

programme

〈クラヴィコードの発音原理〉

♪ J.S.バッハ（1685年～1750年）：
平均律クラヴィーア曲集第1巻
第1番ハ長調 BWV 846 前奏曲

〈ペーブンクについて〉

♪ C.P.E.バッハ（1714年～1788年）：
わがジルバーマン・クラヴィーアへの別れ
Wq.66 H.272

〈弦楽器にもっとも近い鍵盤楽器である
クラヴィコード〉

♪ ハイドン（1732年～1809年）：
クラヴィーアソナタ 第62番 変ホ長調

〈ppへの無限の広がり〉

♪ フローベルガー（1616年～1667年）：
皇帝フェルディナンド3世の悲しい死に寄せる
哀悼歌 FbWV 633

〈ピアノよりも長いクラヴィコードの歴史〉

♪ カベソン（1510年～1566年）：《騎士の歌》
による変奏曲（ディフェレンシアス）

♪ フローベルガー：トッカータ18番 ヘ調

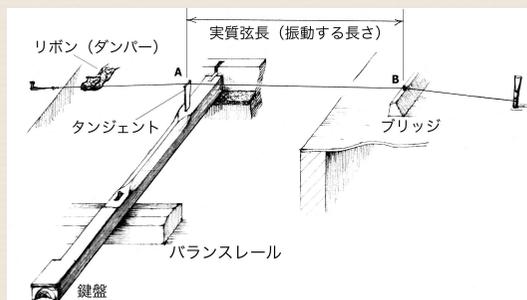
〈クラヴィコードの歴史の終焉〉

♪ ハイドン（1732年～1809年）：
カプリッチョ ト長調《豚の去勢にや8人がかり》
Hob.XVII/1（1765年作曲、1788年初版）

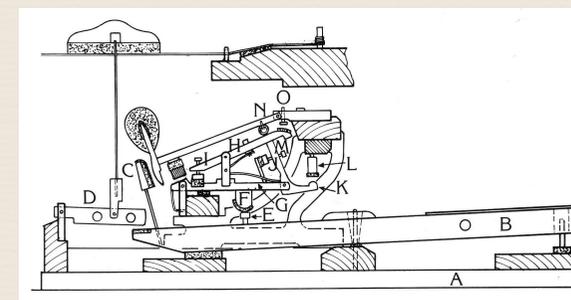
〈まとめ〉

♪ J.S.バッハ：パルティータ第6番より
トッカータ ホ短調 BWV 830

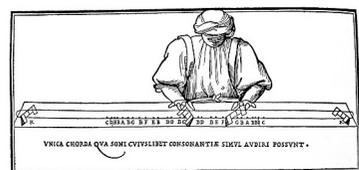
クラヴィコードの発音原理



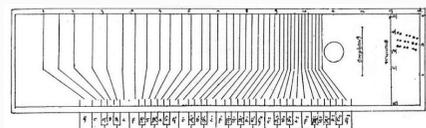
ピアノの発音原理



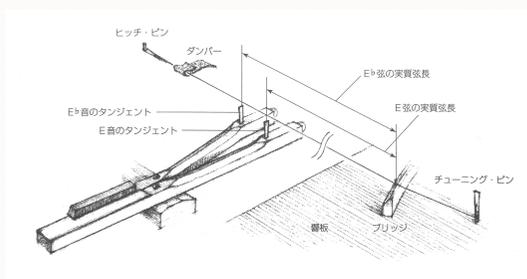
C.P.E.バッハ《わがジルバーマン・クラヴィコードへの別れ》



モノコルド（フォリアーニ,1529年）



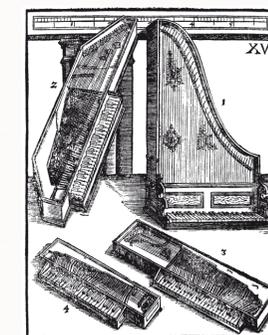
アルノーの図面（1440年頃）



フレット式クラヴィコードの発音原理



ヴェーゼルの、1475-77年
ヨハネと奏楽の天使たち



プレトリウスの《楽器総覧、
1620年》より



本日使用の楽器の俯瞰図

クリストファー・クラーク（Donzy le National、フランス）
製作 2002年 op.28 Johann BODECHTEL, c 1790の複製
楽器（フレット式 音域：C-f^{'''}、ピッチ：a²= 430 Hz）